

## 放課後児童クラブについて（利用者アンケート結果）

### 1 目 的

放課後児童クラブの課題など広く意見を聞き、今後の運営の参考にするため。

### 2 調査期間

令和4年7月11日から令和4年7月31日

### 3 調査対象

令和4年3月1日時点で芦屋市放課後児童クラブに在籍していた児童の保護者  
605人（直営259 委託346）

### 4 調査方法

各保護者に対し、郵送で送付。回答方法は、兵庫県電子申請共同運営システムによる電子アンケートでの回答

### 5 アンケート集計状況

#### (3) アンケート集計状況

配布数 605 （直営259 委託346）  
回収数 208 （直営104 委託104）  
回収率 34.4%（直営40.2% 委託30.1%）

#### 【前回参考（R3.4実施）】

配布数 587 （直営260 委託327）  
回収数 282 （直営137 委託145）  
回収率 48.0%（直営52.7% 委託44.3%）

#### 【前々回参考（R2.3実施）】

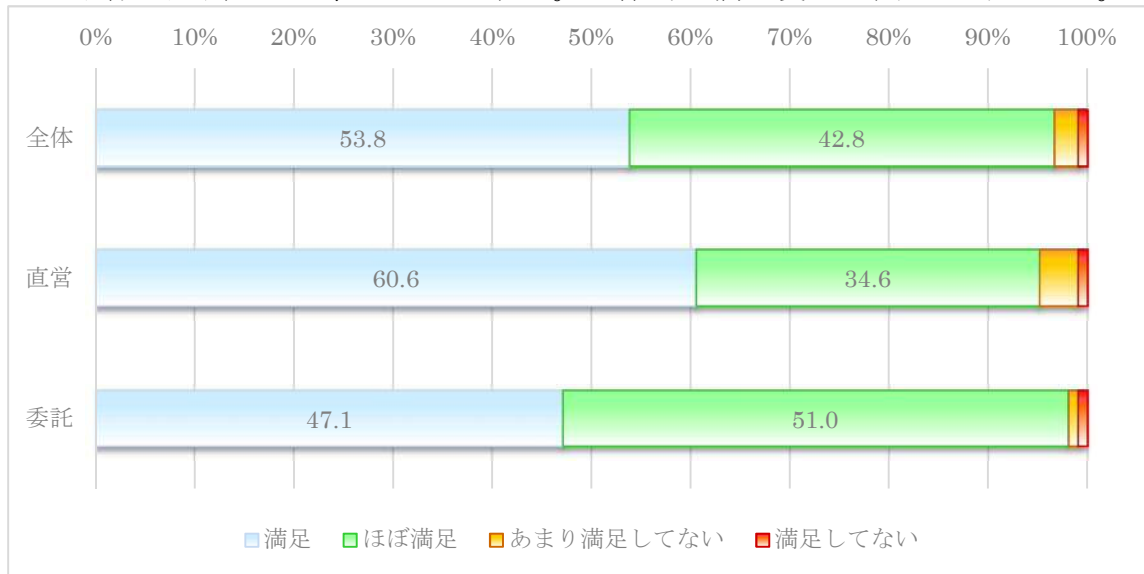
配布数 443 （直営204 委託239）  
回収数 246 （直営131 委託115）  
回収率 55.5%（直営64.2% 委託48.1%）

### 6 集計結果

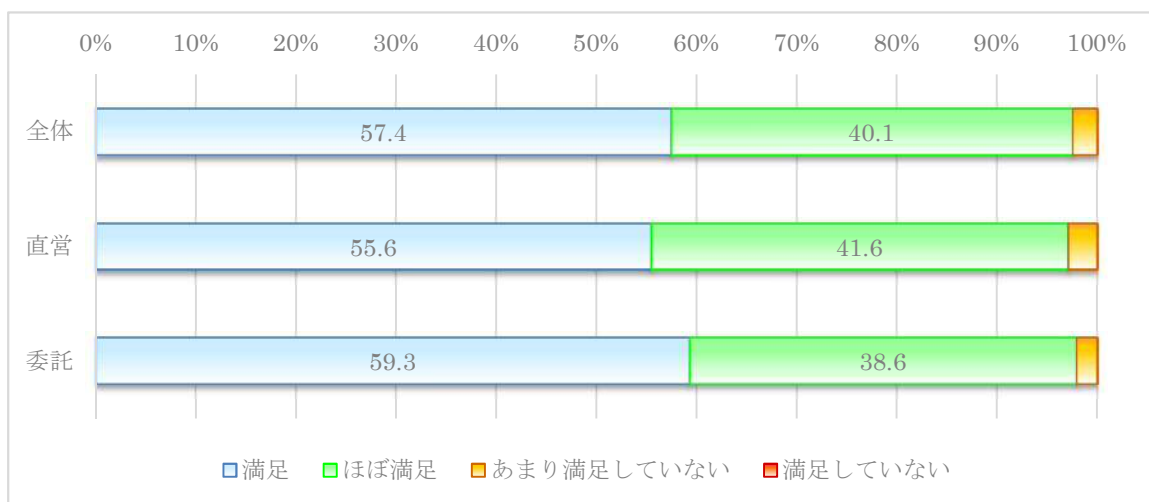
別紙アンケート集計結果

## アンケート集計結果

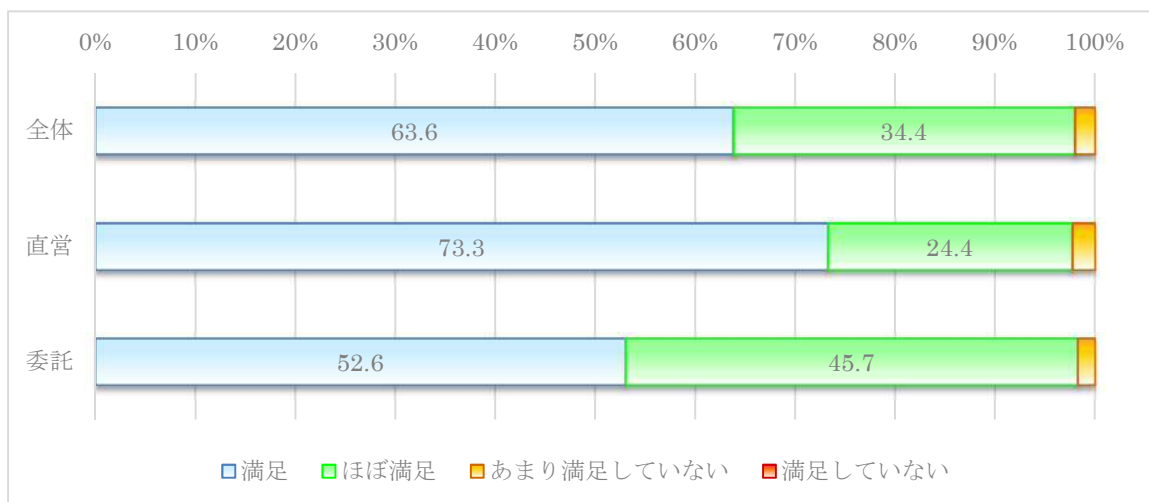
問1 お子様を入会させて、いかがですか。全体的な満足度をお聞かせください。



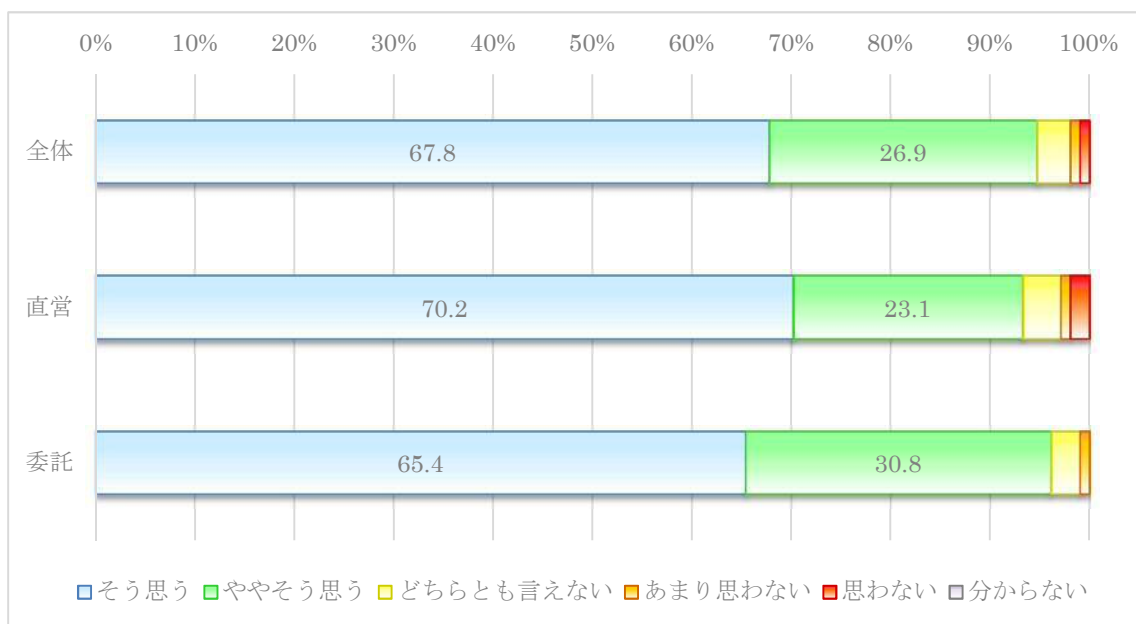
(参考) 【令和2年度 (R3.4 実施)】



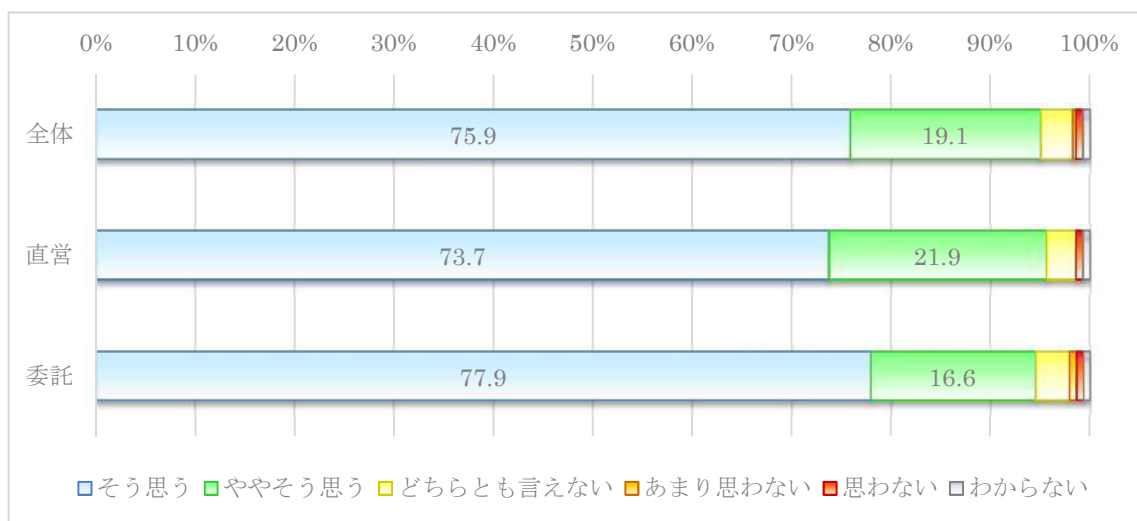
(参考) 【令和元年度 (R2.3 実施)】



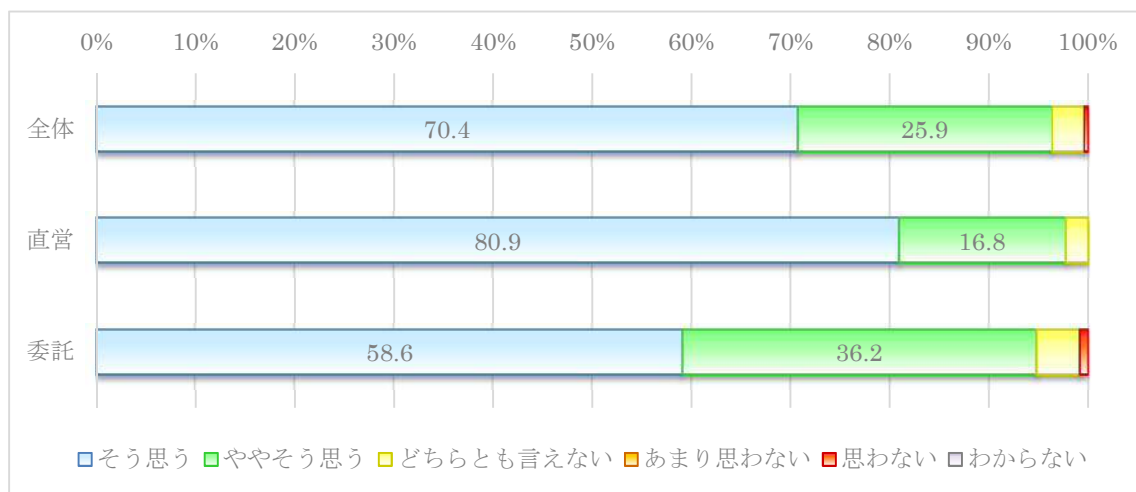
問2 安心して放課後児童クラブに通わせることができますか。



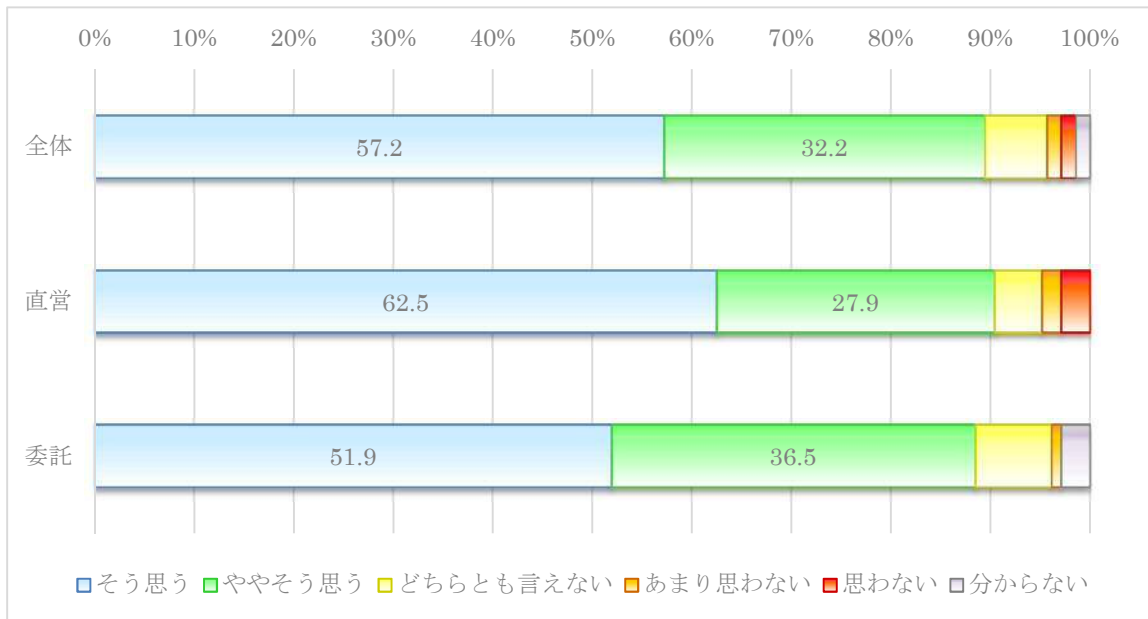
(参考) 【令和2年度 (R3.4 実施)】



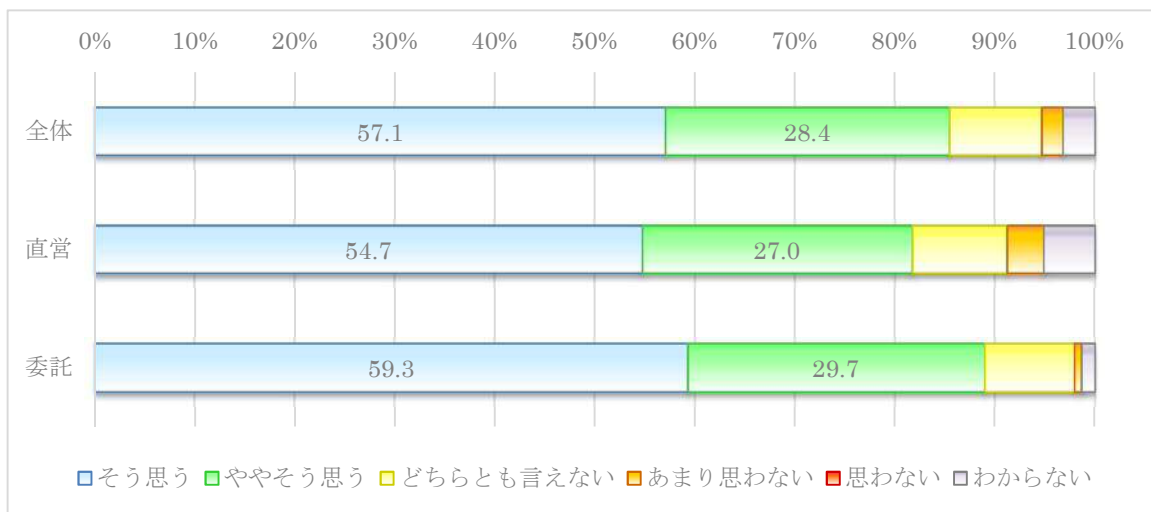
(参考) 【令和元年度 (R2.3 実施)】



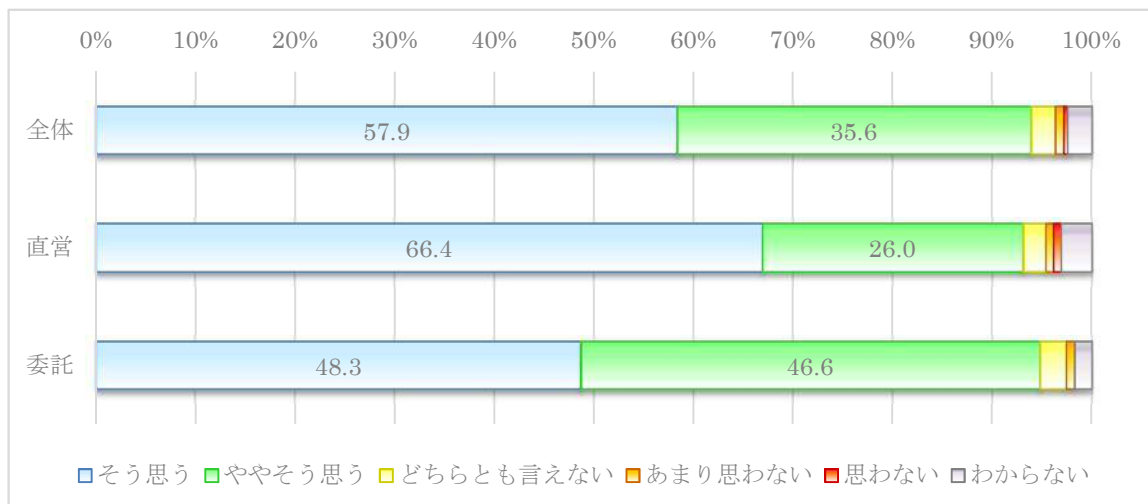
問3 お子様の生活を豊かにするために遊びや活動が工夫されていると思いますか。



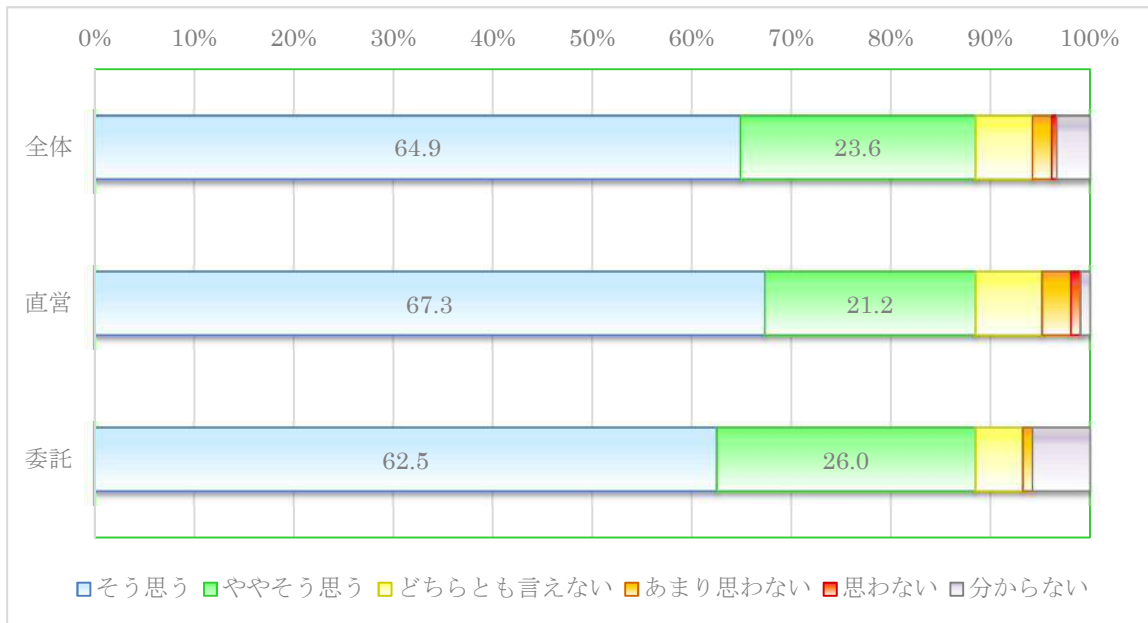
(参考) 【令和2年度 (R3.4 実施)】



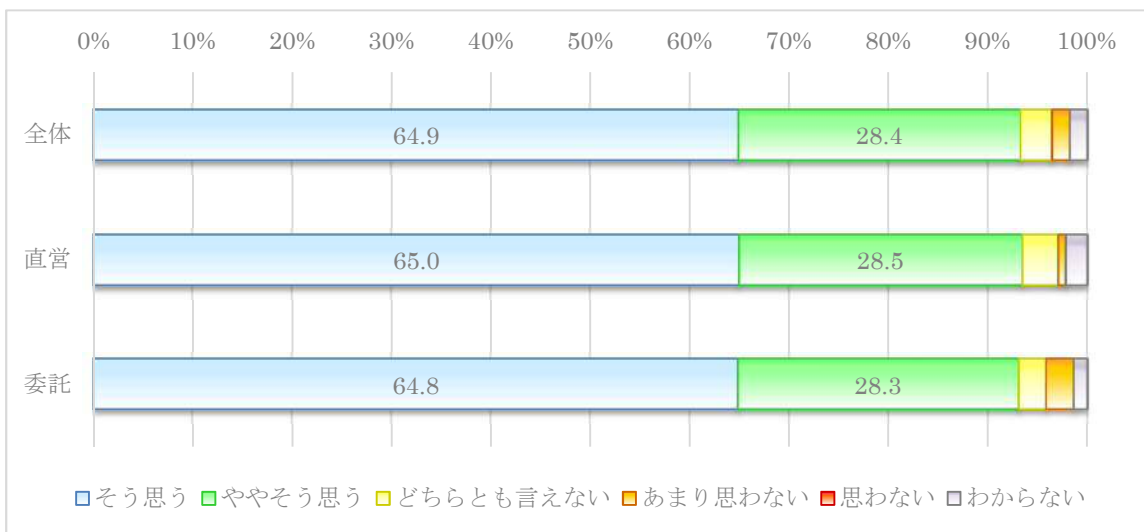
(参考) 【令和元年度 (R2.3 実施)】



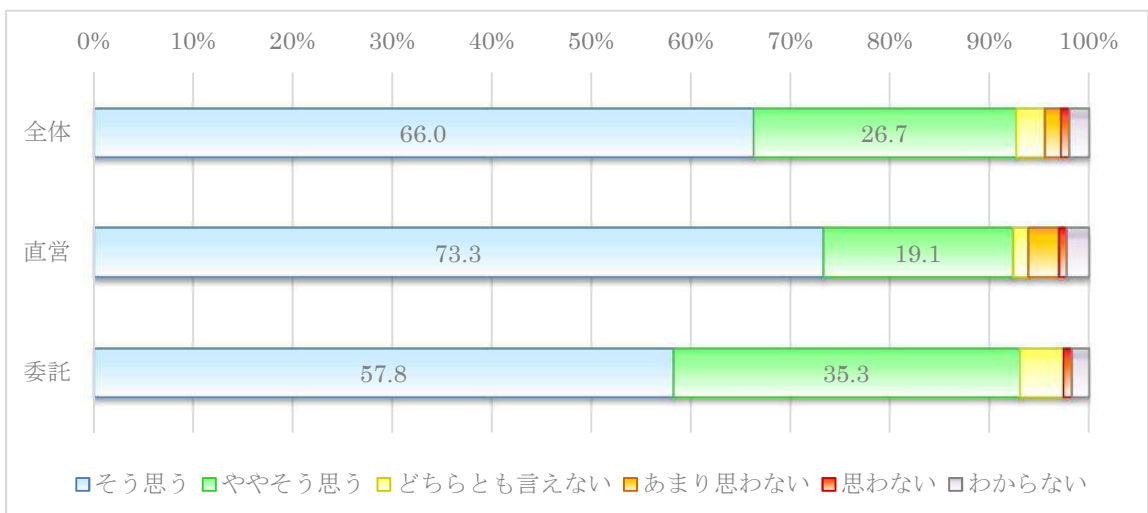
問4 支援員は、お子様が楽しく通えるように働きかけていると思いますか。



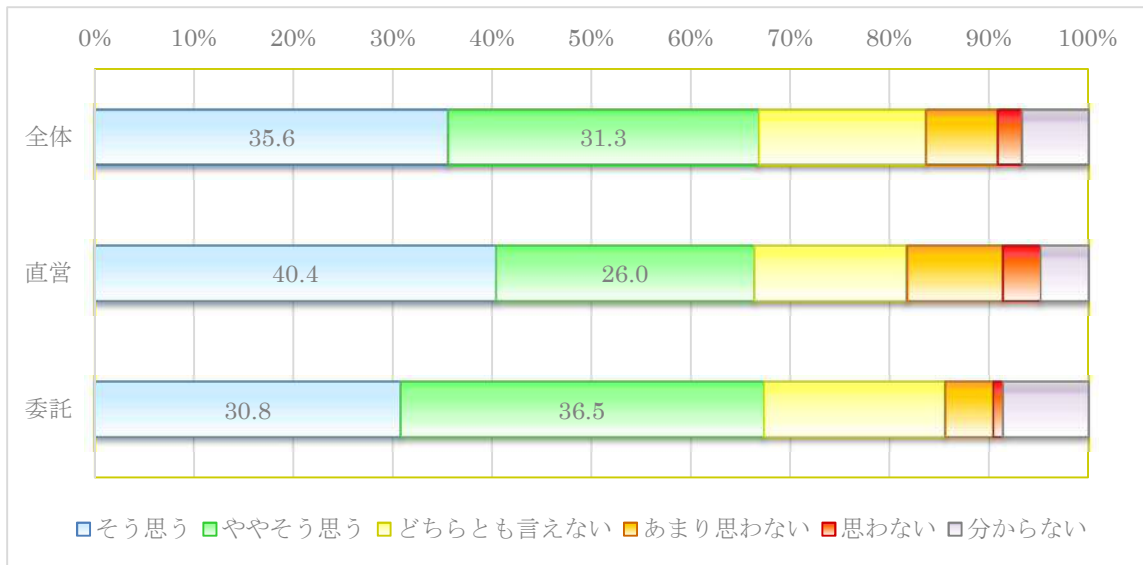
(参考) 【令和2年度 (R3.4 実施)】



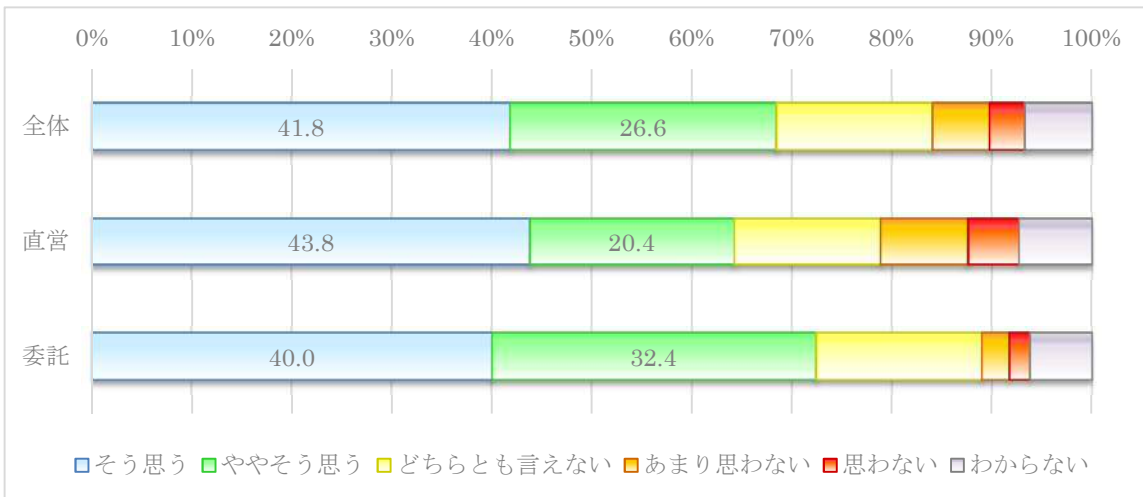
(参考) 【令和元年度 (R2.3 実施)】



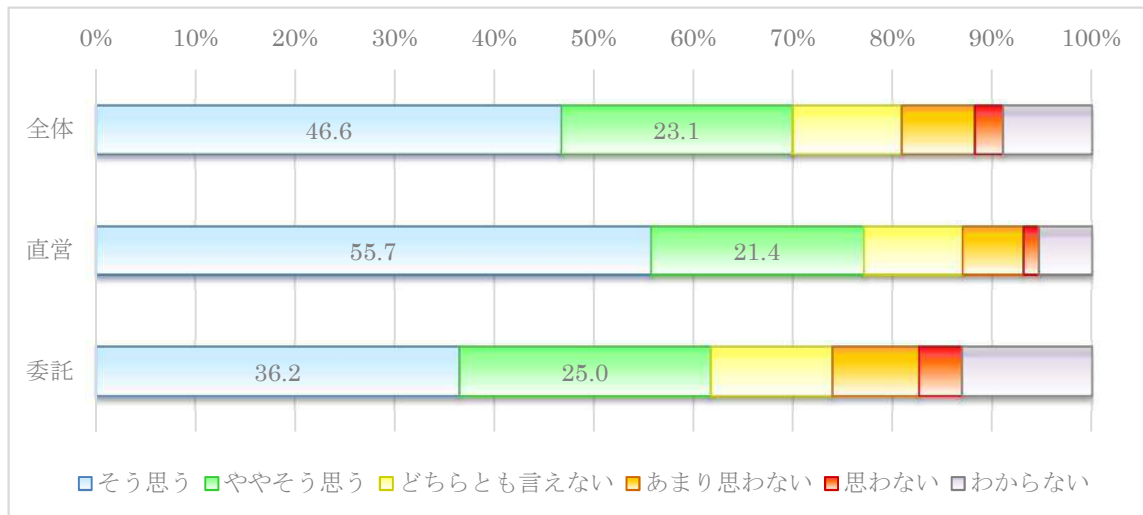
問5 おやつは、お子様に適した内容や量になっていると思いますか。



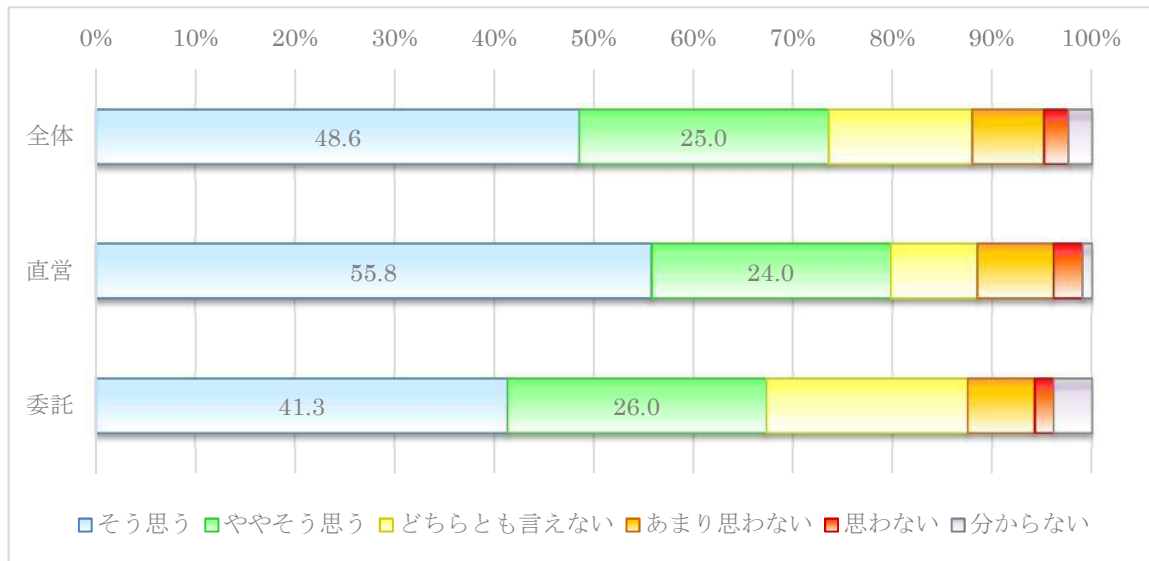
(参考) 【令和2年度 (R3.4 実施)】



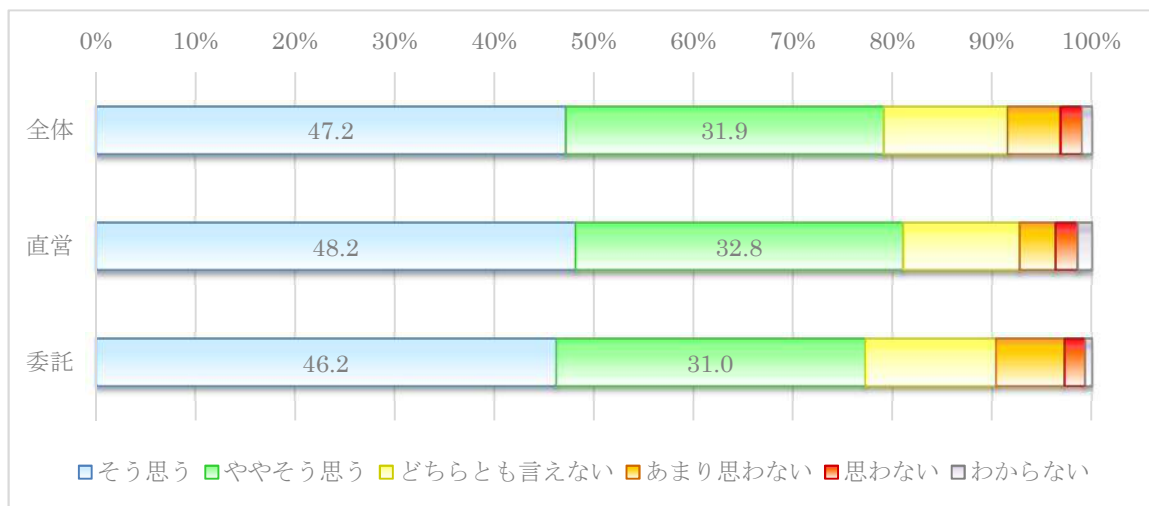
(参考) 【令和元年度 (R2.3 実施)】



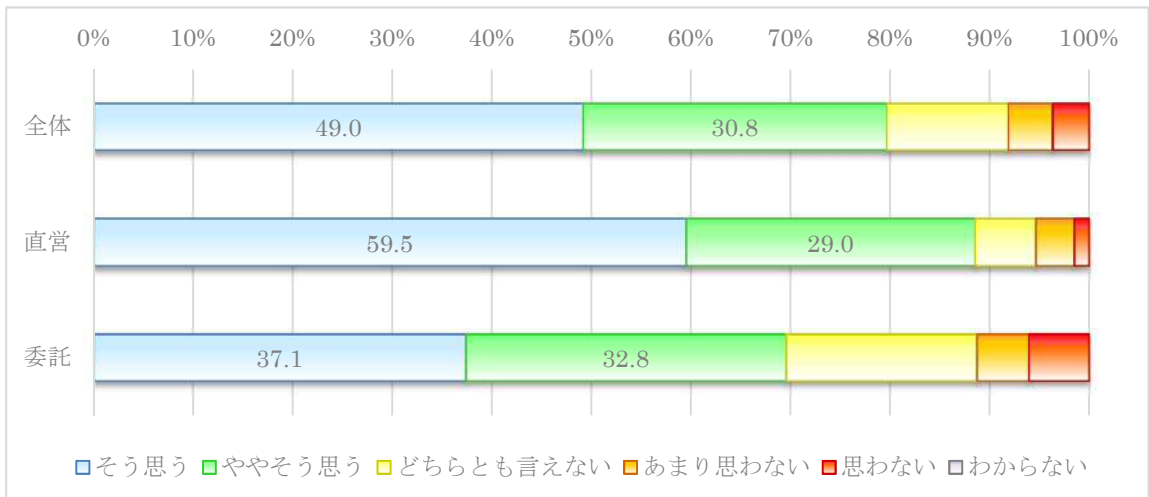
問6 ぶらんこ帳や支援員とのやりとりなどから、お子様の様子が伝わりましたか。



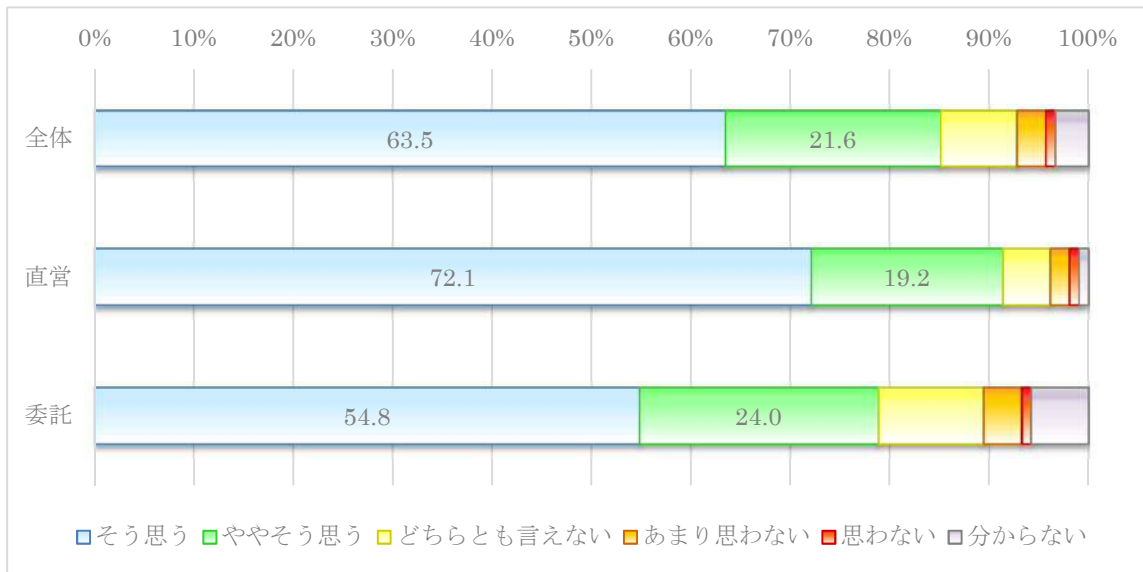
(参考)【令和2年度 (R3.4 実施)】



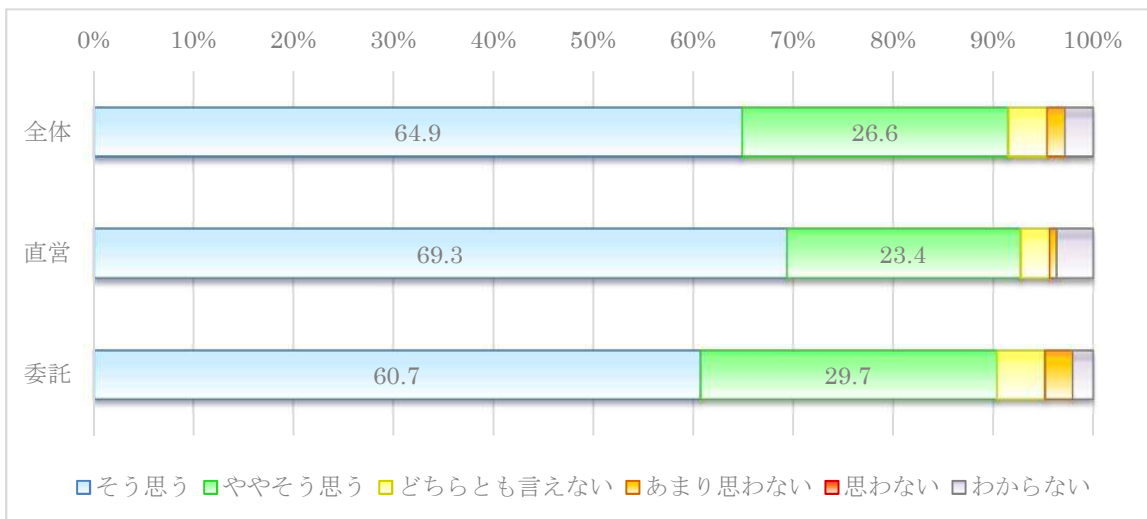
(参考)【令和元年度 (R2.3 実施)】



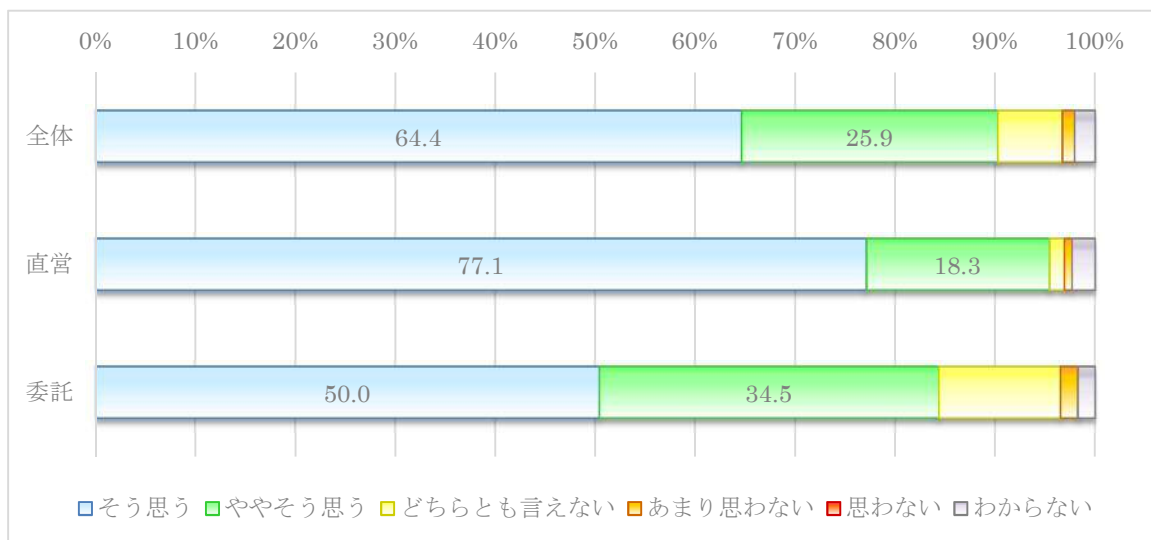
問7 お子様についての連絡（出欠席の連絡を含む）をした時、支援員間で共有されていると思いますか。



(参考) 【令和2年度 (R3.4 実施)】

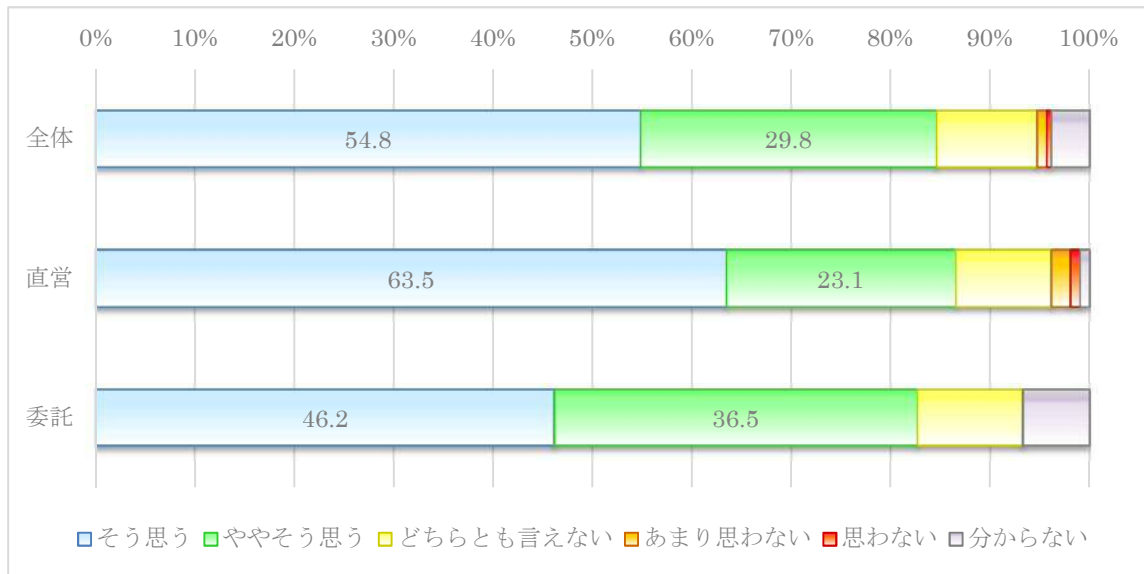


(参考) 【令和元年度 (R2.3 実施)】

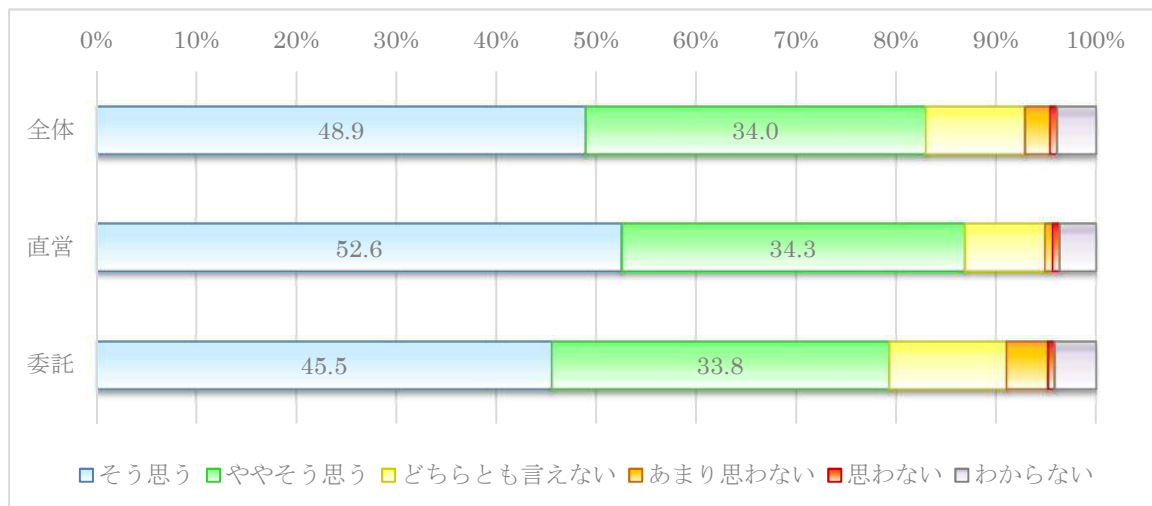




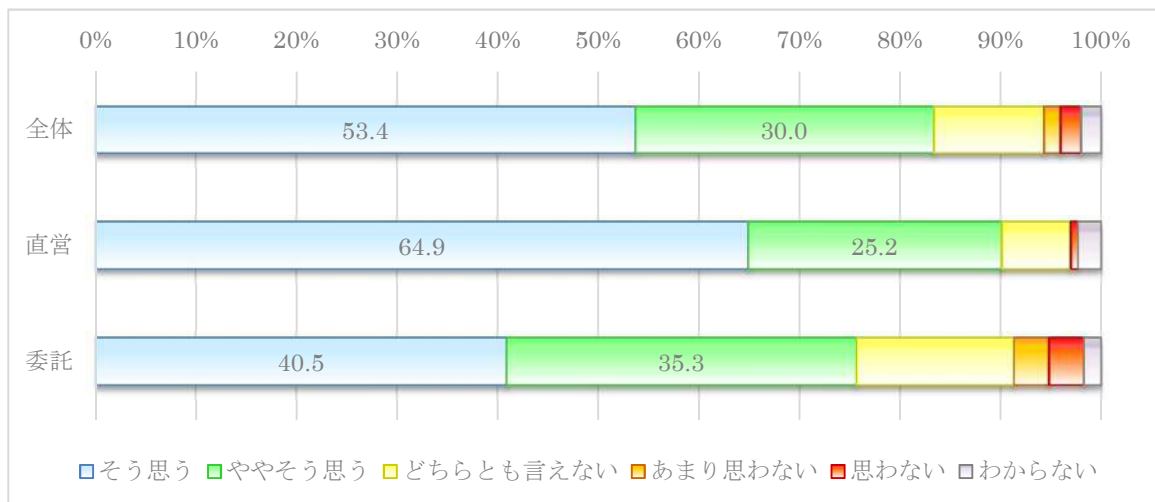
問8 現在の放課後児童クラブの保育環境は、安全管理・衛生管理を含め、適切に運営されていると感じますか。



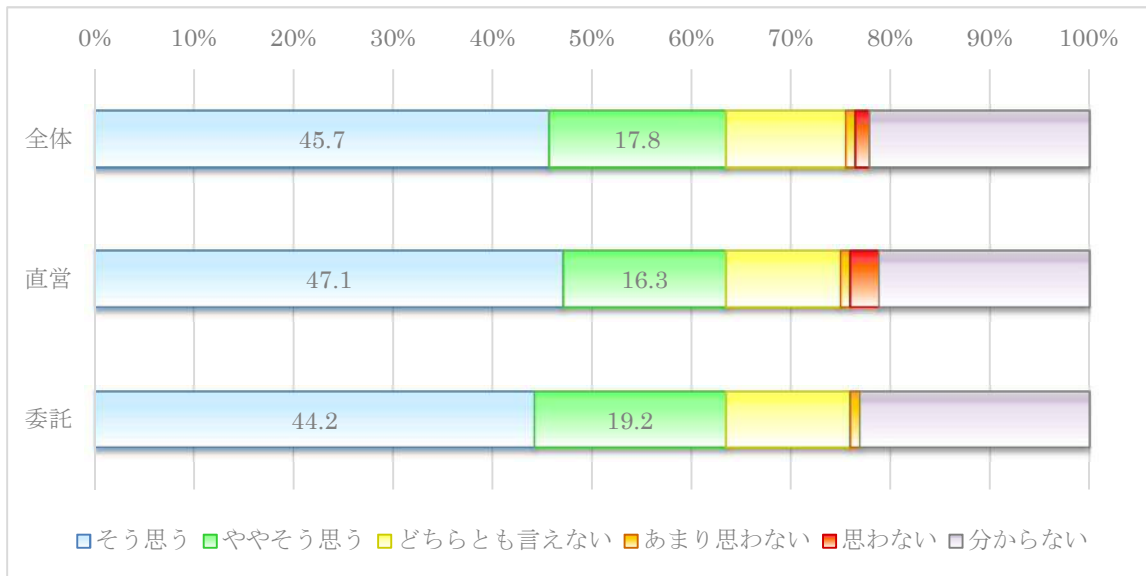
(参考) 【令和2年度 (R3.4 実施)】



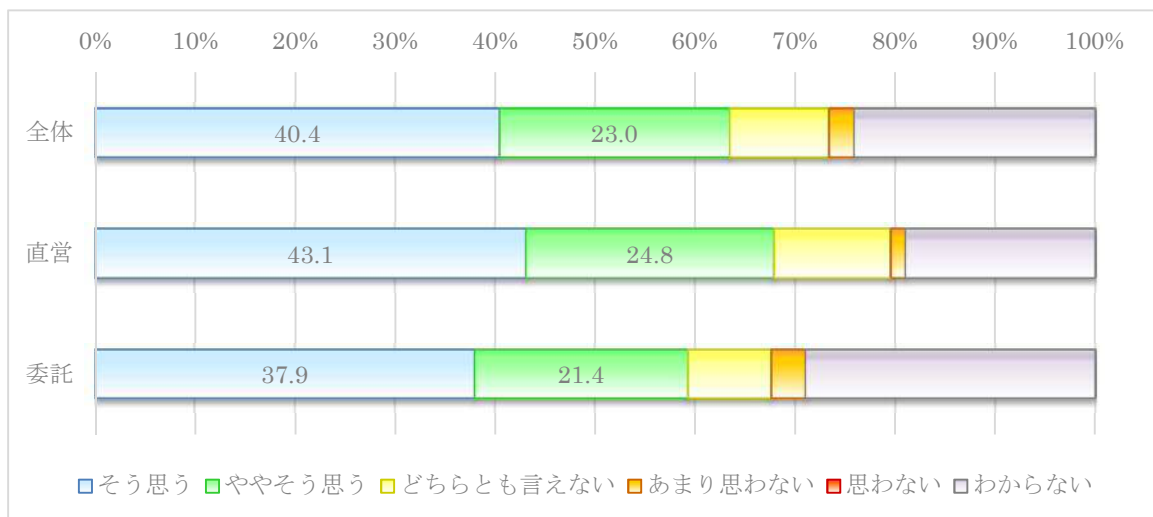
(参考) 【令和元年度 (R2.3 実施)】



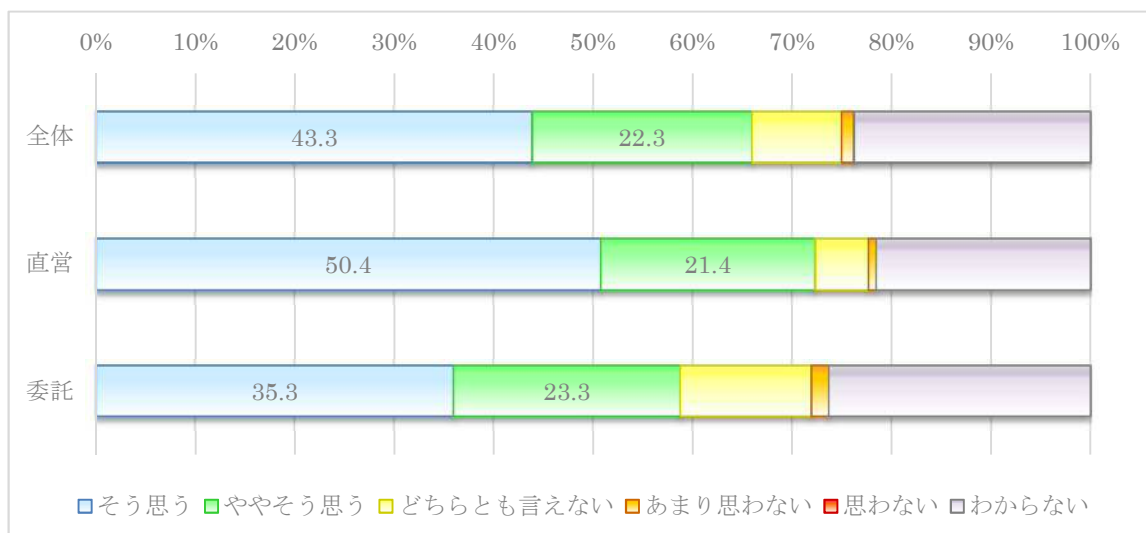
問9 配慮のあるお子様に、適切な支援を行い、子ども同士の関わり合いを大切にしながら生活を送れるよう配慮されていると思いますか。



(参考) 【令和2年度 (R3.4 実施)】



(参考) 【令和元年度 (R2.3 実施)】



放課後児童クラブ・利用者アンケート結果に関する所見  
(令和3年度分：令和4年7～8月実施)

神戸大学 大学院  
人間発達環境学研究所  
(国際人間科学部)  
教授 山下 晃一

第一に、今回の調査結果に絞った所見を述べる。問1（全体的な満足度）については、肯定的回答（「満足」と「ほぼ満足」の合計）が96.6%に上っており、利用者からは概ね一定の高評価を得たと言える。直営学級・委託学級の別に肯定的回答の占める割合を見ると、前者では95.2%、後者では98.1%と少し開きもあるが、消極的回答（「あまり満足していない」と「満足していない」の合計）の件数としてはそれぞれ直営学級が5件、委託学級が2件にとどまっており、いずれも概ね良好な結果であったと考えられる。消極的回答については、少数だったとはいえ、利用者からの貴重な意見表明の一環として受け止めた上で、その要因を見きわめつつ、さらなる改善につなげることを期待したい。

他の重要設問への回答状況を見ると、問2（安心して通える）について、全体の肯定的回答（「そう思う」と「ややそう思う」の合計；以下同様）が、94.7%と非常に高い割合で寄せられている（直営学級93.3%、委託学級96.2%）。

また問8（安全管理・衛生管理）について、全体の肯定的回答が84.6%と比較的高い割合で寄せられている（直営学級86.6%、委託学級82.7%）。この問8の他の回答としては「どちらとも言えない」が10%近くを占めており、それ以外の消極的回答（「あまり思わない」と「思わない」の合計；以下同様）は1.5%と低水準にとどまっている。

なお、問5（おやつの内容や量）について、委託学級では2年前から消極的回答が減少してきた一方で、直営学級では昨年からの消極的回答が増加傾向にあり、あわせて考えると、全設問を通じて消極的回答が比較的多く見られる設問と言える。この点で、利用者の満足度が若干、低くなっているおそれがある。

以上、問1、問2、問8といった重要設問への回答状況から考えると、今回の調査結果を見る限り、放課後児童クラブは全体として例年通り概ね適切に運営されていると言える。他方、問5のように改善余地のある項目も見受けられる。今後、各学級に対して調査結果をフィードバックし、自己点検・自己評価の結果と照らし合わせつつ、職員間で調査結果をしっかりと共有・解釈した上で、改善必要性の有無や具体的改善策を話し合ってもらう等、いっそう質の高いクラブづくりを支援していくことが望まれる。

ところで、調査の回収率は、直営学級か委託学級かを問わず、全体として年々低下している。回答期間が1か月以上確保されているにもかかわらず、今回の回収率は34.4%にとどまった。この回収率であれば、とくに問題を感じていない利用者は回答しなかったことが予想され、結果として消極的回答の割合が相対的に高くなることも考えられる。調査結果の解釈に際しては、こうしたことを踏まえて慎重になる必要がある。とりわけ回答数が少ない学級の調査結果の解釈については、全体の調査結果の解釈以上に配慮が求められるであろう。

第二に、今回調査（令和3年度；以下R3）に加え、過去2回分（令和元年度、令和2年度；以

下それぞれR 1、R 2)も含めた3年間の総括的な所見を述べる。

問1(全体の満足度)については、全体の肯定的回答がR 1…98.0%、R 2…97.5%、R 3…96.6%と高水準を維持してきた。直営学級・委託学級別の肯定的回答の推移も、直営学級がR 1…97.7%、R 2…97.2%、R 3…95.2%、委託学級がR 1…98.3%、R 2…97.9%、R 3…98.1%と、いずれも概ね高水準と言える。消極的回答の割合について直営学級と委託学級の別に見ると、直営(R 1…2.3%、R 2…2.9%、R 3…4.8%)、委託(R 1…1.7%、R 2…2.1%、R 3…1.9%)と直営の方が少しだけ増えてきた。とはいえ、その件数はR 1…3件、R 2…4件、R 3…4件であり、件数自体は、ほぼ一定数で推移しており、回収数が減少したためにその割合が微増したことが分かる。

その他の設問について3年間の推移を見ると、問2(安心して通える)、問8(安全管理・衛生管理)、問9(要配慮児童への支援)では、当初、委託学級の方が直営学級より肯定的回答が少なかったものの、昨年・一昨年で同水準に近づくか、あるいは上回った。問3(遊びや活動の工夫)や問4(支援員の働きかけ)では、直営学級も委託学級も概ね同じような割合で肯定的回答が推移してきた。ただし、消極的回答については直営学級において微増傾向にある。問6(児童の様子)の伝達)や問7(支援員間での連絡共有)では、肯定的回答の割合について直営学級が委託学級を上回っているが、ここでも消極的回答については直営学級において微増傾向にある。ただし、上述の通り消極的回答の割合の微増は、全体回収率の低下に伴う面があるとも考えられる。

なお、第一の所見でも少し触れたが、問5(おやつの内容や量)では若干の課題が見受けられる。R 1からR 2にかけて直営学級でも委託学級でも、肯定的回答が60%半ばと70%半ばで増減して、R 3には67%程度(全体の3分の2程度)にとどまっている。消極的回答については、委託学級で若干低下してきたものの、直営学級では昨年度からあまり低下していない。おやつのあり方については、利用者の声を傾聴しつつ、現実的な諸条件との折り合いの下で早急に改善を図ることが望まれる。

以上のように、いくつかの課題も見受けられるものの、3年間の調査結果を見ていくと、直営学級と委託学級のそれぞれに良さがあり、いずれかを問わず各学級が適切な運営の維持や改善に向けて努力を積み重ねてきた様子がうかがえる。今後も、互いの良さを共有し、刺激し合いながら、利用者が「通ってよかった」「通わせてよかった」と思えるクラブづくりに邁進してほしい。

以上